

会 議 録

会議の名称	第10期第9回小金井市行財政改革市民会議		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	令和4年7月27日（金）午後7時00分～午後8時14分		
開催場所	WEB会議		
出席者	委員	大谷 基道 会長、黒崎 晋司 副会長（職務代理者）、 八木 尚子 委員、馬場 利明 委員、高橋 良一 委員、浅野 由美 委員、 中村 彰宏 委員、溝口 貞彦 委員、松井 大平 委員	
	事務局	市長 西岡 真一郎 企画財政部長 天野 建司、企画政策課主査 森 純也	
欠席者	中村 文亮 委員、行政経営担当課長 平野 純也		
傍聴の可否	ⓐ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	1人
会議次第	別紙1のとおり		
会議要旨	別紙2のとおり		
提出資料	小金井市行財政改革2025（案）に対する答申について 資料1 小金井市行財政改革2025（案）に対する意見及び検討結果 について（概要） 資料1別紙 パブリックコメント結果 資料2 小金井市行財政改革2025（案）について（答申） 当日資料1 答申 その他、意見・提案があった検討箇所について		

小金井市行財政改革市民会議（第9回）次第

日時 令和4年7月27日（水）

午後7時00分から

場所 市役所本庁舎第一会議室

- 1 会議録の確定及び調整について
- 2 小金井市行財政改革2025（案）に対する意見及び検討結果について
- 3 市長への答申について
- 4 その他

※ 配付資料

資料1 小金井市行財政改革2025（案）に対する意見及び検討結果について
（概要）

資料1別紙 パブリックコメント結果

資料2 小金井市行財政改革2025（案）について（答申）

当日配付資料

当日資料1 答申 その他、意見・提案があった検討箇所について

第10期第9回小金井市行財政改革市民会議 会議録

(午後7時00分開会)

- ◎会長 第9回小金井市行財政改革市民会議を開会する。
事情により以降の進行は、本日は副会長にお願いする。
- ◎副会長 承知した。
(「よろしく申し上げます」の声あり)
- ◎副会長 最初に、本日の出欠状況、資料について、事務局から説明をお願いする。
- ◎事務局 本日欠席の御連絡を中村文亮委員からいただいている。
傍聴は、本日は1名の予定である。
続いて、本日の配付資料、1点目「小金井市行財政改革2025(案)に対する意見及び検討結果について(概要)」、2点目「パブリックコメント結果」、3点目「小金井市行財政改革2025(案)について(答申)」の3点が事前配付資料である。
当日配付資料は、「答申 その他、意見・提案があった検討箇所について」である。
本日もこれまで同様、コロナ感染の予防の観点から、可能な限り、時間短縮での開催に御協力いただきたい。
- ◎副会長 次第に沿って1番目は、会議録の確定である。前回の第8回の会議録の確定及び調整について、事務局から説明をお願いする。
- ◎事務局 会議録の確定について、本日の会議で御承認をいただき、公開を考えている。今回は事前にメールで皆様に校正の依頼を差し上げ、委員長及び副委員長及び馬場委員から校正をいただいている。
なお、修正は、文言等の軽微な修正であったため、説明は割愛させていただきます。
- 2点目は、本日の会議の会議録の扱いについてである。市民会議は本日が最終日であるため、本日の会議録は、後日、事務局より委員へ案を送付させていただき、確認いただく方法としたい。各委員の修正が入った会議録を再度、委員長、副委員長に確認いただき、確定としたい。
- 会議録の確定と調整についての説明は以上である。
- ◎副会長 前回の第8回の会議録は、これで確定とし、第9回の会議録は、委員各自確認後、最終確認は会長と副会長に一任ということでよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

◎副会長 次の議題、行財政改革2025(案)に対する意見及び検討結果について、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 資料1に沿って、行財政改革2025(案)に対するパブリックコメントについて意見及び検討結果を報告する。資料1及び資料1別紙は、令和4年5月13日金曜日から令和4年6月13日月曜日の間で実施した小金井市行財政改革2025(案)に対するパブリックコメント概要及び検討結果を一覧にまとめたものである。

意見は延べ8名、33件であった。内訳は、別紙の番号1から番号5が計画の本文等に対するもので、全体を通してのものが2件、重点取組に関するものが2件、優先取組に関するものが1件であった。次に、番号6から33番が各課の具体的な個別取組に対する意見で、28件であった。

パブリックコメント検討結果は、7月15日から市ホームページ及び公民館、図書館等各施設において公表している。

説明は以上である。

◎副会長 延べ8名の方から33件御意見をいただいたということで、それに対する回答も右側の欄に掲載されている。事務局に確認したいのだが、答申案をこれまでつくってきて、最終日の今日のタイミングで、パブリックコメントの結果及び回答を示されたが、パブリックコメントの結果について、本日のこの市民会議で検討する必要があるのか否かということについて伺いたい。

◎事務局 パブリックコメントは、小金井市行財政改革2025(案)の作成後、小金井市市民参加条例の規定に基づき、市民の皆さんの意見を募集した。一方で市民会議への諮問、答申は、計画原案として答申をいただくという立て付けではないため、パブリックコメントについて答申の中に反映させることは検討いただかなくても結構である。

◎副会長 ということは、2025計画案は市が策定し、これについて市民会議でも検討し、その結果を計画案に反映して、2年かけていろいろ修正を加えながらつくってきた一方で、小金井市民の方々にも意見を伺おうということでパブリックコメントにかけ、出された意見について反映できるものは反映する。このように、市民会議とパブリックコメントの両方からの意見を受けとめたうえで市のほうで、両方から受け止めたもので今回の計画案ができたということか。

◎事務局 そうである。

- ◎副会長 市民会議の場でパブリックコメントの結果を議論する必要は手続上はないのか。
- ◎事務局 その様な枠組みで計画の策定は進んでいる。
- ◎副会長 只今、私が確認したのは、手続上のことだが、この検討結果の内容について、質問や意見はあるか。
- ◎事務局 既に公表しているので御報告ということでお願いしたい。
- ◎副会長 市民会議では、協議事項ではなくて、報告事項ということか。
- ◎事務局 そうである。
- ◎副会長 その上で何か質問とか意見があるか。
- ◎馬場委員 保育園の話が一番多く出ていると思う。
- ◎副会長 そうである。
- ◎馬場委員 やはり、こういう議論の分かれるところが、行革の難しいところで、全体の方向性というのと、個別の利害というのといろいろとあって、私は前から、丁寧に説明をして、順を追って理解を求めて、できるだけ行革の中でもそういう手順を踏んでくださいというお話をしてきたつもりだったが、やはり結果的にこういうコメントが多いというのは、ちょっと残念な気はする。しかし、それでもって行革全体の方針が変わるということではないと思っているので、引き続き丁寧に市民の方に説明していただきたい。
- ◎副会長 ほかの委員の方、いかがか。
- 保育関係の意見がやはり多いということで、これは、企画政策課だけではなくて、担当課の方とよく話し合った上で、丁寧に市民の方に説明していただくよう、お願いしたい。今後もまだ継続することだと思うので、保育の担当課の方にも、市民会議の場でそういう話になったということをきちんとお伝えいただきたい。
- 次の議題、市長への答申について、事務局から説明をお願いします。
- ◎事務局 市長への答申について、説明する。
- 小金井市行財政改革2025（案）について、事前配付資料2を御覧いただきたい。こちらは、第8回の市民会議において委員の皆様から出た最終意見を反映したものである。前回、会長より説明をいただいたとおり、最終意見を反映したものを、最後にもう一度委員の皆様を確認いただき、更に生じた微調整を会長及び副会長の一任で確認いただいたものが資料2である。
- したがって、本日は、資料2を確認し、承認をいただきたいと考えている。

説明は以上である。

◎副会長 修正箇所の説明をお願いします。

◎事務局 まず、4ページの2段落目、「市民ニーズは徐々に減り」とあった部分を、「に比較すると相対的に」という形に修正した。

次に、5ページのアの2段落目の2行目、「委託化」の後に「(指定管理を含む)」という文言を追加した。

次に、11ページの理念3の、「財政運営が実現できる」を「財政運営を実現できる」という文言に整備をした。

最後に、20ページの(2)の1段落目、「持たなければならない」を「持つことが期待されている」に修正した。

◎副会長 会長と私と最終チェックで修正した4か所について、会長からコメントをお願いしたい。

◎会長 前後のつながりの部分で通じやすくした点と、市が主体のように読める文章だった部分があったので、そこを客観的な表現に変えた。

◎副会長 私が一番こだわったのは、「そしてニューノーマル時代では、市民自身が、市民の福祉の増進を直接担う覚悟も持つことが期待されている」の箇所である。

当初の文章では市民が覚悟を持つべきだという印象があり、市民に対して強いプレッシャーや義務を課すような表現になっていた。行政から市民に責任を強いるのではなく、市民の皆さんとも、それから議会の議員さんとも一緒にやっっていこうという呼びかけを行政から行っていく主旨が伝わる文章にしたほうが良いとの考えから「期待されている」と修正した。

この修正は、これまでの市民会議でのみなさんの意見や議論をふまえての修正である。

前回、議会のあり方や改善、期待等も含めてかなり議論して、皆さんから出た意見を反映した形となっている。さらにその上で会長と副会長で最終チェックをしている。

これで答申として確定してよろしいか。忌憚のない御意見をいただきたい。

(「全員異議がない意思表示あり」)

◎副会長 それではこれで確定とさせていただきます。

次に、市長に答申をお渡しする形になるかと思うが、会長いかがか。

◎会長 了解した。

それでは、今、決議いただいた答申を市長にお渡しするにあたり、代表して私から、答申に当たって一言申し上げる。

◎副会長 答申に当たっては、会長の喉の調子が悪いため、私が代読する。

◎会長 市長への手渡しは、私も副会長も遠隔参加のため、本日会場に参加している高橋委員と溝口委員にお渡しいただきたい。

◎副会長 答申に当たって、会長に代わり読み上げたい。

令和4年7月27日

小金井市長 西岡 真一郎 殿

小金井市行財政改革市民会議会長

大谷 基道

行財政改革2025（案）策定についての答申に当たって

小金井市における行財政運営の指針となる行財政改革プラン2020の終了を受け、私たち小金井市行財政改革市民会議では、小金井市行財政改革2025を策定するため、諮問を受けてから2年間、コロナ禍による様々な制約を受けながらも、オンライン会議の導入など臨機応変な対応を重ね、9回の全体会議と5回の部会を開催して、市民の方の視点から、あるいは専門的見地から活発な議論・検討を重ねてまいりました。

100年に一度とも言えるパンデミックの中、本市の行財政改革については、令和2年度末で行財政改革プラン2020が終了したものの、新型コロナウイルス感染症対策を優先し、新たな行財政改革プランの策定を先送りしたため、令和3年度からは計画上の空白期間が生じている状況でした。この空白期間を単なる空白期間とせず、次の計画にコロナ禍を踏まえた新たな考え方を反映させるための期間として活用し、ポスト・コロナの時代に即した行財政改革の方向性を再考することが求められています。

市長からの諮問では、新型コロナウイルス感染症の影響等により、社会経済情勢が一層不透明となったことから、これまで以上に踏み込んだ改革が求められていました。これを受け、市民会議では、これまでの一般的な行財政改革の在り方に縛られることなく、真に取り組むべき行財政改革の在り方について議論を重ねてきました。

市長をはじめとする市行政当局に対しては、市民会議による本答申を最大限に尊重し、新しいステージの行財政改革に全庁を挙げて取り組むことを切望します。また、諮問の範囲からやや逸脱するものの、市民の代表である市議会に対しても、新

たな改革に取り組む市役所職員の意欲を評価して後押しするとともに、市議会自体の改革にも積極的に取り組み、市行政当局と一体となって「聖域なき行財政改革」を推進されることを強く要請します。

最後に、行財政改革2025（案）を策定するに当たり、本会議を傍聴された方やパブリックコメントを通して意見を寄せられた方はもちろんのこと、本会議に関心をお寄せいただいた全ての皆様に御礼申し上げます。

以上

◎高橋委員 会長に代わり、答申をお渡しする。

(答申書の手交)

◎市長 熱心な御議論をいただき、感謝申し上げます。

◎副会長 無事に答申を作成して、市長にお渡しすることができた。議題、その他である。事務局から願います。

◎事務局 2点ある。1点目は、行財政改革2025の今後の策定スケジュールについて報告させていただく。

市民会議の皆様からいただいた答申及びこれまでの市民会議の意見を踏まえた行財政改革2025の最終案を、来月中旬に庁内組織である行財政再建推進本部に諮り、行財政改革2025は完成となる。その後、9月には議会への報告及び公表も考えている。なお、8月下旬を目途に庁内職員向けに説明会を開催し、この行革を本格的に実施、始めていきたいという予定である。

2点目は、本日、2年間にわたって御協力いただいていた、第10期市民会議が本日で終了となることから、皆様から簡単に感想などをお願いしたい。

◎副会長 了解した。

◎事務局 名簿順で、最後、副会長、会長をお願いしたい。

初めに、八木委員をお願いしたい。

◎八木委員 大変すばらしい答申が出来上がったと思っている。私は、4期8年、この市民会議に関わらせていただいた。最初は行財政改革大綱の頃で、行財政改革に取り組むこととなった経緯とか、そういうものを勉強させていただきながら、委員を務めさせていただいていた。今までの行政って何をしていただろうという思いが当時はいっぱいあった。その頃は、行財政改革で何に取り組んでいるのかを知っている職員が6、7割しかいなかった。当の職員が、そんなの知らないよというような

時代であった。だけど、その後に時を重ねて、市民会議の皆さんの熱心さもあり、本当に、私が関わっている中では、行政って変わったなと思えるシーンにいっぱい出会うことができた。

これまで、行財政改革大綱をチェックする立場から、新しい行革を作り上げる立場まで色々と経験してきたが、どの場合でも、最終的には出来上がったもの、答申したものが、次にどういう形でどういうふうに生かされていくか、次の政策にどう反映されていくかということが一番大切なところである。

今回の行財政改革2025は、具体的な成果を求めるものとか数字を求めるものというのがそれほど入っていないので、特にその評価というか、どこまで実現されたかということはなかなか形として見えづらいものにはなっているが、是非、市民会議の答申を踏まえて、次の世代の子どもたちに選ばれる小金井になってほしいなと思っている。

議会のことに踏み込めたのも、8年かかりようやくかなというところもある。

本当に2年間お世話になり感謝申し上げます。

◎副会長

感謝申し上げます。

◎事務局

感謝申し上げます。

◎市長

感謝申し上げます。

◎事務局

続きまして、松井委員にお願いします。

◎松井委員

八木委員も言われたとおり、数値的な目標みたいなものが殆ど入っていない計画となっているため、そのような計画を一応生み出したほうとしては、今後よく注視していきたいと思っている。

ただ、私は2期、市民会議を務めさせてもらったが、市の職員には、素晴らしい方が本当にたくさんいるので、その人たちが生き生きと仕事ができるような環境、人材育成と言ってしまえばそれまでだが、そういった環境がつかれるようになったら、もっとよくなるのではといつも思いながら会議に参加してきた。

なじみの少ない言葉や、数字を見る機会も多く、思うようなところまで自分自身では踏み込めなかったかなと思っている。今後も答申した者の一人として、必ずこういったものにきちんと目を通して、一緒になって作り上げていくような気持ちで進んでいきたいなと思っている。感謝申し上げます。

◎市長

感謝申し上げます。

◎事務局

感謝申し上げます。

続きまして、馬場委員に願する。

◎馬場委員 私も2期、担当させていただいたが、今回の答申は、何か市民の気持ちが一番入っているのかなと思っている。形だけではなくて、行政と市民と議会も一緒になって、ある程度余裕のある自治体運営をしていかないと、コロナのように何かあったときに本当に困るということが実感できたと思う。だから、行政も、常に8割ぐらいの力で仕事できて、残り2割は何かあったときに頑張れるというふうな、そのぐらいの行政運営ができて、財政的にもうまくいくというふうな、そういうことができたらいいなかなと思う。

◎市長 感謝申し上げます。

◎事務局 感謝申し上げます。

◎副会長 感謝申し上げます。

◎事務局 続きまして、高橋委員に願する。

◎高橋委員 会長、それから副会長さん、それから事務局の皆さんに感謝申し上げます。

コロナというかつてない状況の中で、会議の間が空いたり、対面での会議ができなかったり、事務局は大変だったと思うが、答申までこぎ着けたということで、皆様、大変なことがあったと思うが、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

私自身は、議会の日曜傍聴をしたことはあったが、小金井市政そのものに参加するのは全く初めてで、非常にいい経験ができたなと思っている。その中で委員の皆様ともお知り合いになれ、あまり対面での機会がなかったが、こういう形で皆さんが活動されているのもよく分かった。また今後ともお付き合いできればと思っている。

また、小金井市で、こういう市民の声を聴くということで市民会議を設置しているというのは非常に大事なことだと思っているので、ぜひ、この答申に書かれたことを市政に活かしていただければ、本当にこれ以上うれしいことはないと思っている。

◎市長 感謝申し上げます。

◎事務局 感謝申し上げます。

◎副会長 感謝申し上げます。

◎事務局 浅野委員に願する。

◎浅野委員 今回初めてこういう会議に参加させていただき、何が何やら全然分からなかったのですが、本当に迷惑をおかけしたと思う。フィードバックだけで発言したことをうまく受け止めていただき、本当に感謝している。

小金井に住んで30年たつが、本当にいろいろなことがあったと思う。駅周辺の環境も本当に変わってきており、この市に住んでよかったなというふうに思っている。この先も市民の皆さんには小金井に住んでいてよかったなと思ってほしいし、職員の皆さんもそうしてもらえていると感じられれば、みんなが幸せだと思う。

事務局の皆様、会長、副会長、本当に感謝申し上げます。

◎副会長 感謝申し上げます。

◎市長 感謝申し上げます。

◎事務局 感謝申し上げます。

続きまして、中村彰宏委員にお願いします。

◎中村（彰）委員 2年間、皆様、お世話になり感謝申し上げます。

委員の皆さんだけでなく、職員の方々にも大変お世話になった。また、西岡市長にもよく会議に出てください、皆さんと一体感を感じながら会議に参加できというふうに思っている。

◎市長 感謝申し上げます。

◎中村（彰）委員 自画自賛になってしまうが、いい答申ができたと思っている。

これもひとえに、皆様の御協力と、それから職員の方々がよく対応いただいたということを実感しております。

八木委員もおっしゃっていたが、今後、これを受け止めていただき、行政のほう、市議会のほうで本当の改革が実行に移されるように祈念している。本当に2年間感謝申し上げます。

◎市長 感謝申し上げます。

◎副会長 感謝申し上げます。

◎事務局 感謝申し上げます。

溝口委員にお願いします。

◎溝口委員

私は、市の仕事、行政にタッチするのは初めてで、市の仕事の印象についてはもう大分前に、30年か、もっと前に読んだ、イギリス人が書いた本で日本でも大分ベストセラーになった本での内容が記憶に残っていた。それには、公務員、役人というのは、そもそも仕事がない世界で、先輩とか後輩にいろいろ、お祝い事とかで仕事を作り出していく世界であるということ面白おかしく書いてある本であった。このため、役所という所は気楽なところかなと思っていたが、今回、あまり深くは触れられなかったが、一端に触れることができ、今まで自分が思っていたのとは非常に違うことがよく分かった。市の職員の皆さんは非常に厳しく仕事

をされている。公的機関としてあるべき厳格なルールがあって、その中で非常な努力をされているということが分かった。これからも市民のために、どうぞ、一生懸命いい仕事をしていただきたいと思う。

◎市長

感謝申し上げます。

◎事務局

感謝申し上げます。

副会長にお願いします。

◎副会長

私からは3点、感想を述べさせていただきます。

一点目は、今回の計画の内容について、以前の総花的なものから重点というのを絞り込むことができ、具体的な成果が期待される実効性の高い計画になったことである。特に、人材育成や組織、議会改革のことまで踏み込んで書き込むことができたことは、現行計画よりも一歩前進したと思っている。

二点目は、この会議自体が非常に気づきの多い会議だったことである。皆さんから非常に多様な意見を、いろいろな角度から検討していただくことができた。こうした会議への参加が初めてとの浅野委員の意見などもすごく新鮮だったし、長年参加されている八木委員の具体的でリアルなご意見など、皆さんのそれぞれの立場とか経験から、ワークショップなども行いながら、いろいろな意見を出し合って多角的に検討できたと思う。私にとっても非常に気づきが多い会議だった。そういう意味で、感謝申し上げます。

三点目には、事務局はよく頑張ったと思う。途中で課長は替わる、担当者も替わる、コロナ対応もある大変な中で、よく引き継いでここまでやってくださった。このこと自体が今後の行財政改革が大いに期待できる根拠であると感じている。ただ、これで終わりではなく、ようやくスタートに立つわけで、引き続きぜひ頑張ってください。

私たち市民会議は、温かく見守りながら、応援していくというか、背中を押していくというか、そういう立場にあると思う。この会議で議論してきたような、組織文化や作風を引き継ぎながら、引き続き見守っていききたい、応援していききたいと思っている。感謝申し上げます。

◎市長

感謝申し上げます。

◎事務局

感謝申し上げます。

最後に会長にお願いしたい。

◎会長

本日、どうにか答申にまで無事たどり着けたのも、委員の皆様、そして事務局の皆様方の多大なる御尽力、御協力のおかげと思っている。自治体の会議体でこれほど熱く活発な議論が繰り広げられるのはなかなかないかなと、私も大分あてられるぐらい、大分熱い議論だったと思う。

2年間大変お世話になった。感謝申し上げます。

◎市長

感謝申し上げます。

◎事務局

感謝申し上げます。

◎副会長

感謝申し上げます。

では、西岡市長に挨拶をお願いします。

◎市長

皆様、改めまして、こんばんは。行財政改革市民会議、最終回、誠にお疲れさまでございました。

また、答申まで約2年間、全体会9回、部会5回、恐らくは個人的な事前学習、調べものなどなど、あったと思う。大変熱心な、そして、大変活発な議論を経た上での答申をいただいたこと、市役所を代表して、心から御礼と感謝を申し上げます。

大切なことは、こういった計画あるいは答申、つくり上げる、練り上げる、これは次の段階へのゴールでもあり、スタート地点ということであるので、私たちは、いただいた答申を真摯に受け止めて、そして、行財政改革2025をしっかりと実践していくことが何よりも求められていると強く決意を固めているところである。

どうぞ市民会議の皆様方は、一つの節目としては皆様方の任期は終了するが、しかし、継続して小金井市の行財政改革2025への取組を、どうか厳しくチェック、監視、注視していただきたいと思う。そして時に、何かありますれば、どうか、ぜひ市役所に御意見もいただきたいと思う。感謝申し上げます。

振り返ると、私は、27歳、今から25年前に小金井市議会議員に初めて当選いたしました。このときは、平成8年度の小金井市の決算が、経常収支比率が111.4%で全国ワーストワンの経常収支比率でした。そして、そのときは市役所職員に支払う退職金もなく、その退職金を全国で初めて借金をして職員の退職金を賄う、これもまた小金井市では全国で初めての状況に陥っているという大変厳しい財政状況から私の市議会議員活動はスタートした。そのときに時の市長は大久保慎七市長でした。第1次行財政改革大

綱なるものを策定する。そこから私の市議会議員の活動がスタートした。

したがいまして、私の市議会議員としてのこの市政の関わりの原点は、小金井市の行財政改革。この行財政改革の目的は、言うまでもなく、何のためにやるのかといえば、それは市民のため、小金井市の未来のため、具体的には今回の行財政改革2025では、市民の福祉の増進ということの一つの大きな柱に出しましたが、市民のために行うのが行財政改革である。

第1次、第2次と、議会の立場からこの改革を極めて懸命に推進し、第3次のときに若干、私、東京都議会のほうで2期8年活動しましたが、市長として市政に関わり、第3次行革大綱の後半から市長に就任し、そして行財政改革プラン2020を策定し、実践。さらに行財政改革2025をこのたび策定させていただき、答申をいた。したがいまして、都合、この25年間、四半世紀の間に1次、2次、3次、行財政改革プラン2020、そして行財政改革2025と、大きく五つの行財政改革にこの間、向き合ってきた。

その中で一貫して感じることは、本来、市役所、行政は、なかなか、できることしか計画に上げないという風潮が昔はあったかと思うが、私が市長に就任してからは、結果として、達成率という意味では反省はあるものの、意欲的な、やはりチャレンジも当然しなければいけないという思いは持ってきて、行財政改革プラン2020、そして行財政改革2025ということで、チャレンジする気持ちというものを大切にしていきたいと思っている。

そのためには、やはり、行財政改革市民会議の皆様方のような、市民の皆様方との信頼関係、連帯、つながり、これはとても大切であり、私たちは、その思いをしっかりと胸に秘めて取り組まなければいけないと改めて実感しているところである。

特に今回、この五つの大きな大綱の流れの中で、量的な改革から、だんだんだんだん質的な改革に移行しつつある。もちろん質も量も、組織、機構も全て大事であるが、特に質的な改革、非常に重要でありまして、今回、3本の柱、公民連携・アウトソーシング、公共施設マネジメント、自治体DXという大きな三つの柱を掲げさせていただきまして、この改革を通じて、この三つの大きな柱を通じて、そこから派生する様々な成果や効果というもの

を上げていかなければいけないと考えている。

ぜひとも、今回、皆様方に関わっていただいたこと、本当に感謝申し上げます。これからも小金井市の行財政改革の取組に関しては、どうか厳しく注視していただきたいと思う。

市長としては、これから肝に銘じなければいけないことは、やはり職員の皆様と、目的、そして戦略、戦術、そして行財政改革2025の中身、こういったものをしっかり共有していくことがとても大切だと思っている。

コロナ禍で約2年間、私もずっと市長として続けていた市長と職場の懇談会というのがある。1期4年間の中では、全部で四十数課あるが、2巡した。八十数回、市長と職場の懇談会を開催して、若い職員の方々も含めて、いろいろな問題意識を共有したり、市長からのメッセージも伝えたが、ここで改めて復活するということを指示して、来月から市長と職場の懇談会も始まる。その中でメインは、基本構想と行財政改革2025、この二つを職員の皆様としっかり共有してまいりたいと思っている。そのためにしっかり努力をしてまいるので、どうかこれからも末永く市政を、ぜひ、時に応援していただいたり、時に厳しい御意見をいただきたいと思っているので、よろしく申し上げます。

2年間にわたりまして、大変お世話になりました。感謝申し上げます。この後、私からの指名で、天野企画財政部長からも一言御挨拶を申し上げたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。

◎企画財政部長

行財政改革市民会議の皆さん、御提言いただき、感謝申し上げます。令和2年度、コロナ禍の時期から議論がされ、令和4年度においては、新しい生活様式、ニューノーマルの時代でありながらも、さらに第7波が顕著となってきた状況でもあり、まさに厳しいこの時代の提言というふうに私は思っている。

市では、これまで市民の命、暮らし、地域を守る覚悟を持って行財政運営を行ってきた。令和3年度では、コロナ禍における影響や変化から、新たな市の最上位計画である第5次基本構想において年度末まで議論が行われ、議決された状況である。

そして、市民会議の皆さんからいただいたこの答申は、共に行財政改革2025を策定してきた成果であり、新しいステージへの御意見と思っているので、最大限尊重し、全庁において取り組んでいきたいと思う。

最後ですが、皆さんと一緒に力を合わせることは大事であり、行革の進め方や組織の在り方、そして雰囲気も共に変えていかなければならないと思っているので、これからも皆さん、よろしくお願ひ申し上げます。本日は本当に感謝申し上げます。

◎副会長

市長、天野部長、感謝申し上げます。

それでは、これをもちまして、第9回小金井市行財政改革市民会議を閉会する。

2年間、皆さん、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。（拍手）

（午後8時14分閉会）